

我が署における国民参加の森づくりへの取り組み

山形森林管理署最上支署

○ 緒方 博史

1. はじめに

国民の森づくりに対する関心は、年々高まってきており、最上地方でも「直接、森づくりや森林環境保全に関わっていきたい」という住民の声が聞かれます。「国民参加の森づくり」を目指す国有林としては、このような声にこたえつつ、森林の多様性や森林施業への理解を深め、同時に「いやし」の場を提供することが求められます。

当署は、典型的な木材生産が主軸であった署であり、住民が森づくりに加わる取り組みとしては、植樹祭程度しか行われていませんでした。しかし、平成9年に学生による森林作業体験ボランティアの受け入れを始めたことをきっかけに、去年は、地元NGOへの森づくりフィールドの提供等も始まり、当署でもようやく本格的な「国民参加の森づくり」への取り組みが開始されたところであります。

そこで当署におけるこれまでこの種の取り組みをふりかえりつつ、一定の評価をするとともにこれを踏まえて今後「国民参加の森づくり」の目指す方向について考察しました。

森林づくりのボランティア活動への参加意向

	該当者数 人	参加したい %	参加したくない %	わからない %
総数	2, 137	44.0	51.5	4.5
男性	980	49.1	46.6	4.3
女性	1, 157	39.7	55.7	4.7

「森林と生活に関する世論調査」平成11年7月実施

2. 当署における国民参加の森づくり等への取り組み状況

当署での取り組みとしては、現在、下表のとおり植樹祭、森林作業体験ボランティアの受け入れ、NGOへの森づくりフィールドの提供及び森林巡視協力員の委嘱を行っています。(分収林を除く)

名 称	内 容
植 樹 祭	地元の2つの自治体（真室川町、金山町）と共催という形で既に25回行われている取り組み。必要な段取りのほとんどすべてを署が実施。参加者は、苗木を受けとって植えるのみ。
森林作業体験ボランティアの受け入れ	実際の森林作業体験をとおして森づくりの大切さ、大変さを知ってもらい、森林・林業に対する理解と関心を深め、さらに本格的なボランティア活動への参加の契機になることを期待して山形大学の学生を対象に平成9年度から実施。実質2日程度の日程で、下刈りが中心に実施。
NGOへの森づくりフィールドの提供	地元のNGOの要請に応じて昨年からは開始。0.6haの人工林伐採跡地に広葉樹林を造成することを目標とし、森づくりの企画から参加者募集、さらに現地作業に至るまでNGOが主体となって実施。
保全巡視協力員の委嘱	国有林の良好な自然環境を保全するために、民間の方にボランティアで巡視を委嘱。現在、4名の巡視員が主に高山植物や貴重な湿性植物の盗掘監視パトロールを実施。

3. NGOへの森づくりフィールドの提供について

次にこれらの取り組みのうち、新しい試みである森づくりのフィールド提供についてその詳細を紹介します。

(1) フィールド提供決定までの経緯、及び対象NGO

平成10年秋に甑山探求会という地元NGOから署側に国有林内で広葉樹造成に関わりたいという要請がありました。署内で制度上の問題について検討したのち、とりあえず体験林業の枠組み（「国有林野を利用した記念植樹及び体験林業について」昭和58年長官通達）の中で受け入れることとし、平成11年2月に署担当者も加わっ

て実行委員会を組織しました。延べ4回の委員会を開催し、具体的実施方法等について検討しました。

このNGOは、地元部落の有志が中心となって結成した自然愛好団体で、いわゆる都市型の落下傘タイプでなく、地域住民主体の活動をしている団体です。

(2) 甌山探求会による森づくりの実施

ア、参加者集め

ポスター1000部を作成し、最上地域の地方公共団体、企業等に配布し、掲示してもらうとともに、最上郡内の友好団体にも声をかけ参加者を集めていました。参加費は大人は、1,500円でした。

イ、森づくりの実施

森づくり活動は3回に分けて行われました。どの回もJR真室川駅前からマイクロスバスを使って参加者を森づくりの現地まで輸送していました。

(ア) 第1回 苗木の山採りと仮植 参加50名

平成11年5月30日(日)

日程	内容	備 考
8:30	開会行事	近接の小学校にて
9:15 }	苗木採集	加無山林道を歩きながら、法面に等に生えている稚苗を採取 広葉樹苗木は購入すると値が張り、小さなNGOにはとても負担できないので思いついたアイデアです。
10:30		
10:30 }	男甌山登山	巨木めぐり、マイズルソウ群生地見学
13:30		
14:30 }	交流会	山菜料理を楽しみました
16:30		

(イ) 第2回 地拵え 参加46名

平成11年9月19日(日)

日程	内容	備考
9:00 } 11:15	地拵え	地味な作業なのであまり人が集まらないのでは、心配しましたが多数の参加者がありました。この森づくりは、広葉樹造成が目的であることから現地に生えてる幼木の保存にも、気を使っていました。
11:40 } 13:30	女甕山登山 名勝沼散策	最上山系の自然を満喫
14:30 } 16:30	交流会	キノコ料理を楽しむ

(ウ) 第3回 植樹 参加80名

平成11年10月11日(振休)

日程	内容	備考
9:00 } 11:00	植樹	主にブナ、カエデ、ミズキ等が植えられました。この日は地元部落の小学生ほぼ全員25名も参加しました。また植樹した木に自分の名札を下げたりする人もいました。
11:00 } 14:00	女甕山登山	イワナの生態観察
4:30	交流会	皆勤賞等の授与

イベント終了後、必ず交流会を開き、参加者同士の意見交換や情報交換の場を設けていました。また、イベントの内容やスケジュールもバラエティの富んでおり、参加者の満足を得られるように工夫されていたと評価しています。このことにもより3回中2回以上参加したリピーターが2/3を占めるなど、今後必要となる保育作業へも多数の参加が見込まれます。

参加者は、真室川町内が中心でしたが、山形市方面からの参加もあるなど、この種の関心の高さを実感したところです。平成12年度は、下刈りを予定しています。

3, 当署が行った支援

この森づくり活動に対して当署で行った支援は次のとおりです。

- ア, 林地の提供、山採り苗の提供
- イ, 鋤、下刈り鎌道具の貸しだし
- ウ, 林内での技術指導

また、体験林業の枠組みは、他署では通常1作業行為のみとしてこれまで運用されてきたものですが、長期的な取り組みとしたいというNGOからの要請に応じてとりあえず期間を2年と設定しました。

そして平成11年秋からスタートした「ふれあいの森」制度にこの取り組みをのせて、全面的にバックアップしようと考えているところです。

4. 国民参加の森づくり活動の比較考察

2で掲げた当署で現在行っている取り組みのうち直接森づくりに関わる3つについて、それぞれの長所短所を比較考察してみました。

今回の森づくりフィールドの提供とこれまでの取り組み2種（植樹祭、森林作業体験ボランティアの受け入れ）とを比較すると、まず第一に、参加者がより深く森づくりに関わることができるという特徴があります。また各種段取りや実行をNGOが行いますので、署の負担は比較的少ないという特徴もあります。

一方、植樹祭は、署側が必要な段取りをほぼすべて行うので、参加者は苗木を植えるだけですみ、老若男女多数の参加が可能ですが、参加者は植樹するだけにとどまることが多く、そのときだけの一過性が強いイベントと言えます。参加者の顔ぶれ、イベントの内容も毎年マンネリ化の傾向があり、同時に署側の負担もかなり大きいことがあげられます。

また、森林林業体験ボランティアは、保育作業を中心にやっていることから、森林作業の3K（キツイ、キタナイ、キケン）にふれることができるという利点があります。植えるだけの植樹祭に比べて森林作業の本質に迫ることができるといっていいいでしょう。しかし、2日程度の日程でしかも毎年参加者も変わる状況では、多くの作業を体験させることはできないので、息の長い森づくりという観点から見ればやはり一過性の強いイベントという面は否定できません。署の負担という面では、植樹祭ほどではありませんが、やはり実施期間中は、現場に安全確保の観点から署員が張り付く必要があり、負担が比較的大きいと考えています。

今後、国民参加の森づくりをさらに進めて行くにあたっては、これらに掲げたいろいろな取り組みのそれぞれの特徴を十分踏まえたうえで実施して行く必要があると考えます。それぞれの取り組みには長所短所がありますが、特に今後国有林野事業に携わる者として考えなければならないことは、積極的に森づくりに関わりたいというNGOが増えてくること、及び森林管理署の職員が減少していくことから、手取り足取りの指導がむづかしくなっていくことの二点ではないでしょうか。このような観点から今回の森づくりのような民間指導の活動がより重要になってくると考えています。

5. 今後の課題

今回のフィールド提供は、NGO側も署側も初めてだったことからノウハウが十分になく、まさに手探り状態で行わざるを得ませんでした。署としても得ることが多かったと評価しています。最後に一年目の活動が終了した時点で気がついたお互いの課題というべき点をまとめてみました。

(1) NGO側の課題

- ①参加者集めをいかに効率よく行うか
- ②プログラム内容を充実させ、参加者の満足度を高める工夫をすること
- ③このNGOと森づくりの継続性の確保については、特に地域リーダーの存在と育成が重要。
- ④地元住民が豊かな自然があるにもかかわらず、心や生活が森から離れつつある現状にあることから、地元住民が自然を再認識させるような企画を作成（地域住民の意識改革）
- ⑤資金の確保のため、民間の各種基金等既存の制度をいかに効果的に利用していくか（今回は利用していない）

(2) 署の課題

①職員の志気を高めるための対策

まだまだ「手探り状態」で職員個人の興味に頼る部分が多いので、特定の職員に偏らない取り組みが必要。

②ボランティアの自主性尊重

今後、ボランティア団体から署に、活動をしたいという要望があった時、技術指導程度にとどめるのが理想ですが、最初は企画面にも踏み込んだ対応が求められる可能性大。この場合NGOの自主性を尊重し、プライドを傷つけないような配慮も必要。

③責任あるボランティア（NGO）の見極めを行うために計画、活動内容の明確化、署との意思疎通を十分図る。

ボランティアという言葉に甘えるNGOも依然多いようですが、ボランティアであっても責任を持ってやらしてもらわなければフィールドは提供できません。場所が国民共有の財産である国有林ということをNGOに強く意識してもらう必要があります。

今後このような活動を受け入れていくにあたって、署側として特に重要なことは森林管理署は、いわゆるコーディネーター役に徹しNGOが自主性を持って行う活動するために必要な条件を整備していくことではないでしょうか。以上のようなことを踏まえ「国民参加の森づくり」へのさらなる大きな流れを作って行きたいと考えます。